

平成15年9月18日

日本学術振興会
プロセスシステム工学第143委員会
委員長 小野木 克明

プロセスシステム工学第143委員会

第144回委員会・平成15年度第3回研究会 開催通知

(143委員会ホームページ <http://jsps143.pse.nuce.nagoya-u.ac.jp/>)

1. 日時：2003年10月10日（金）13:00～17:00
2. 場所：東京 弘済会館（東京都千代田区麹町5-1 / 電話：03-5276-0333）
（交通：JR中央線・地下鉄丸の内線「四ッ谷駅」下車徒歩3分）
3. 委員会：(13:00～13:10)
4. 研究会：(13:10～17:00) テーマ：「バッチプロセスの運転・管理・制御」

13:10～15:20 常設分科会「ジャパンバッチフォーラム」活動報告

<概要> WS17, 20を経て、2000年にバッチシステムに関する研究、国際協調、普及を目的に143委員会常設分科会として設立されたジャパンバッチフォーラム（JBF）も3年が経過し、この6月に新体制となった。本講演では、WBFを始めとしたバッチに関する国際動向を踏まえた上で、これまでとこれからのJBF活動の概要について説明する。また、バッチの重要なテーマに焦点を絞り、実際に具体的な研究活動を行うためJBF内に設立された3つのワーキンググループに関して、それぞれのこれまでの取り組みと成果について報告する。

- 1) JBFの概要とバッチの国際動向（30分）
森永乳業（株） 杉浦 彰俊 委員
- 2) JBF ワーキンググループ活動報告
 - (1) 「WG1: 標準化」(S88 入門書作成) (30分)
横河電機（株） 篠田 拓也 氏
 - (2) 「WG2: 経営管理との連携」(30分)
森永乳業（株） 杉浦 彰俊 委員
 - (3) 「WG3: 統合開発環境」(30分)
三菱化学（株） 河野 浩司 氏
- 3) 質疑応答（10分）

15:20～15:40 コーヒーブレイク

15:40～16:30 「バッチプロセスにおけるモデル予測制御技術の活用」

日揮(株) 昆 潤一郎 氏

<概要> これまで主に大型の連続プロセスにおいて利用されてきたモデル予測制御技術を、バッチプロセスにおいて活用する上での様々な工夫および利点、また今後の技術課題について紹介する。

16:30～16:45 「非連続系の制御の問題」

名古屋大学 橋爪 進 委員

<概要> バッチプロセスをはじめとする非連続系の制御は、連続系に比べて理論体系化が進んでいない。その1つの原因は、連続系の状態方程式、伝達関数に相当するモデルが存在しない点にあると考えられる。非連続系である離散事象システムやハイブリッドシステムのモデルとそれ

に基づく制御の現状について報告する。

16:45～17:00 総合討論

<追記>

準備の都合がありますので、出欠をご記入の上、10月6日(月)までにご回答下さい。

[送信先]

名古屋大学工学研究科 分子化学工学専攻 小野木 克明 FAX : 052-789-3267